

(別紙2) 平成 22 年度

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4071300539		
法人名	株式会社 ホームケアサービス		
事業所名	グループホーム 片江		
所在地	福岡市城南区片江3 - 37 - 5		
自己評価作成日	平成22年7月4日	評価結果確定日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>入居者のかたが、家庭的な雰囲気の中で、安心して暮らせていけるよう援助を行う努力をする。</p>
----------------------------------------------------

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do">http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---------------------------------------------------------------------------------------

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所周辺は、古くから居住している方や新しく転居してきた方、学生など様々な年代層の人々が暮らす、再開発地域である。月1回、全職員出席による会議を開催して、利用者の状態やサービスの質について検討し、ケアの質の向上に努めている。センター方式の様式の一部を利用し、利用者一人ひとりの出来ることや出来そうなことの把握に努め、個々の利用者に合わせて「さりげない支援」が行われている。毎月、写真を同封した利用者の様子や状態を知らせる便りの送付、家族対応による外食、買物、季節行事等の外出を推奨し、利用者と家族との関係性の継続に努めている。今後ますます、地域との交流の充実、及び事業所理念である「地域とのふれあい」の実践が期待できる事業所である。</p>
-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 福岡市社会福祉協議会 介護サービス評価センターふくおか		
所在地	福岡市中央区荒戸3丁目3番39号 福岡市市民福祉プラザ		
訪問調査日	平成22年8月2日		

〔セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)- です。〕

### 自己評価および外部評価票

ユニット名: 2階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ミーティングで、理念の確認。見えるように壁に貼りだしている。	法人全体としての理念の他に、グループホームとしての理念がある。笑顔を絶やさず、利用者の出来る事はしていただくなど、理念を意識した支援が行われている。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	高齢者住宅の入居者の人たちと一緒にボランティアで来られる演芸会を見ている。散歩の途中に地域の人たちに挨拶を交わしている。	気候を見計らったの買物や散歩時の挨拶など、日常の場面を通じての働きかけが行われている。再開発地域、及び事業所が町内の外れに在る等の特性上、日常的な交流の実施までには至っていない。	町内会への加入、町内の廃品回収への協力、日々の清掃活動や声かけなど、継続的に出来る事から始められ、自然な形で地域との連携が生まれるような取り組みを期待します。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や民生委員の会合に参加。認知症のかたの支援の様子を語っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一回開催。グループホームでの行事報告や地域参加への話し合いをおこなっている。	民生委員、地域包括支援センター職員、利用者・家族代表等の参加により、2ヶ月毎に開催している。事業所からの報告の他、民生委員の方より情報を頂いたり、運営推進会議の目的の説明(地域包括支援センター職員より)などが行われている。	地域の方の参加が少なく、単調な運営推進会議となっているようです。老人会や自治会、交番、消防署、郵便局の職員の参加を試みる等、様々な視点での活発な意見交換の場となるような取組みを期待します。
5	4	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	入居者の相談事を持ち掛けている。	運営推進会議に、地域包括支援センター職員の参加がある。成年後見人の手続き等について相談に赴いたり、グループホーム協議会を通じて行政担当職員との懇談会を行うなど、連携が図られている。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入居者の中で、慣れない環境の方が、不穏な行動をされる時、フェンスの施錠を行っている	建物の出入口は、出入り自由である。各ユニットの出入口は、オートロック方式を採用している。建物1階の玄関ホール横には、併設施設の事務所があり、見守りが行われている。職員は、高齢者虐待の勉強会への参加を通じて身体拘束について学んでいる。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加。ミーティングで情報の共有に努める。		
8	6	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加。入居者の成年後見人の手続きを支援中。	職員は、成年後見制度の手続きの支援、研修会への参加、報告会等を通じて、制度について学んでいる。新規入居の家族、及び必要と思われる利用者に対する説明が行われている。	今後の支援の一角を担う重要な制度であることから、運営推進会議を利用して制度についての情報提供を行い、運営推進会議録の全利用者・家族への送付を行うなど、高齢者の権利を守るための取組みを期待します。
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際、契約書を開いて説明を行っている。		
10	7	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	一か月に一度便りを家族へ送付。ケアプランの見直しの時要望を尋ねる。	日々のかかわりを通じて、利用者の思いを把握している。毎月の便りの送付、家族面会時の声かけ、介護計画書見直し時やその都度の電話連絡などを通じて、家族の意見等の把握に努めている。出された意見等は、介護計画書に反映させている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一回、合同ミーティング、カンファレンスで意見を求める。その他個人、一人一人話す機会を設けている。	毎月のカンファレンス時、及び合同ミーティング時に、職員のアイデアや意見を自由に出し合うことができる。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	処遇改善、賞与等に反映させている。		
13	9	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	行っている。研修の参加、行事担当を通じてアイデアを出している。	法人として、勤務先を明記しての募集である。職員の採用に関しては、ヘルパー2級を条件付けているが、その他の制限等は設けていない。研修会への参加や資格取得に対して、勤務調整を行うなどの配慮がある。	
14	10	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	研修の参加。合同ミーティング、カンファレンスで行っている。	高齢者虐待防止法や成年後見制度等についての研修への参加、及び報告会を通じて、学んでいる。	職員の基本的資質である人権意識の喚起のために、マスメディア等で取り上げられる話題を活用しての勉強会、行政担当職員による運営推進会議等を利用して啓発活動等、さまざまな機会を利用して積極的な取組みを期待します。
15		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の参加。実習生を受け入れることにより、自分自身のケアの確認を行っている。		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホーム協議会に加入。それにより、新しい情報を仕入れ、他の施設へ行く機会を設けている。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	行っている。日頃の会話の中でくみ取るよう心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約の際、暫定の介護計画を作成のときに行っている。		
19		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所する際、いま現在の生活の様子を見学し、サービス利用に反映させている。		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯畳みや、一緒にテレビを見たり、部屋の飾り付けを行ったりしている。		
21		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月に一回、便りを送付。面会や、外出時間を自由に行っている。		
22	11	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族で居室で過ごす時間を設けている。馴染みの美容室に連れて行かれる。	趣味を通じた知人の訪問、家族対応による行きつけの美容室の利用など、馴染みの関係性への継続支援がある。	
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レク、散歩への参加。お互い雑談ができるようテーブルやいすの配置を行っている。		
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	その時の電話相談に応じ、できる範囲であれば、支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	12	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	カンファレンスで意見交換を行う。	日々のかかわりを通じて、利用者の思いや希望の把握に努めている。把握した思いや希望等は、朝の申し送り、毎月のカンファレンス、その都度のミニカンファレンスにて情報の共有が図られている。	
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時、家族の方、在宅のケアマネジャーの意見を参考にし、援助計画に反映させている。		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日、その日の体調に合わせて、おこなっている。		
28	13	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月一回のカンファレンスで、スタッフの意見、本人や家族へ要望を聞いて介護計画に反映させている。	毎月及びその都度のカンファレンスや申し送りの記録を参考にし、計画作成担当者により3か月毎の見直し・再作成が行われている。	
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	月一回のカンファレンスで見直しを行っている。		
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人それぞれの希望に添えるように、毎日の会話から傾聴し、くみ取っている。		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くの店への買い物に付き添い、希望の品を選ぶように援助している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32	14	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の往診。その都度、入居者の様子を報告し、指示を仰いでいる。	利用者のいままでのかかりつけ医への受診は、家族対応により可能である。事業所の協力医があり、日常的な健康管理は協力医により行われている。その都度の歯科医往診、及び耳鼻科、眼科等の専門医への受診は、家族と職員の協力のもと行われている。	
33		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月4回の訪問看護。毎日の体調を報告、相談もしている。		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	週一回面会し、担当看護師に情報を聞くことを実施している。		
35	15	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時退院時、本人の体力の低下に伴い、話し合いの場を設けている。	契約時に、終末期についての説明が行われている。利用者・家族からの意向が確認されている。利用時は、センター方式の様式に記しているが、積極的な働きかけは行われていない。	人生をどのように生き、どのように送るかの決定権は利用者にあります。日々のかかわりを通じて、利用者の思いの把握と情報共有に努め、利用者の思いを尊重した支援への取組みを期待します。
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修の参加。ミーティング等で再確認を行っている。		
37	16	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練。ミーティングの度に災害時予防訓練を行っている。運営推進会議をつうじて地域への協力を求めている。	スプリンクラーの設置あり。年2回、併設する高齢者専用住宅との合同避難訓練を実施している。水消火器を使用した消化訓練、緊急時の消防署への電話のかけ方など、実際の場面を想定した訓練を実施している。	地域住民との連携や運営推進会議への地域の方の参加の充実を図られ、避難訓練時の地域住民の参加・見学や地域との防災協定の締結、地域連絡網の充実など、地域協力体制の構築に取り組まれることを期待します。
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	17	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりに合わせた声掛けの対応を行っている。	利用者の行動や様子をよく観察した上で利用者を尊重した声かけ、出来ることを見守りながらの支援など、利用者の自尊心に配慮した対応が見受けられた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日の会話の中から希望を聞き出来るよう支援している。		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人の体調に合わせ、声掛けし、希望に添えるよう支援している。		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その時の季節に合う服を選べるよう声掛け支援している。		
42	18	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人に合わせたペースに応じ、片付けをされる。	併設施設でのメニュー作成と調理が行われており、各ユニットでの配膳である。利用者の下膳をあたたく見守る職員、職員の食事の場所の心配をする利用者など、利用者・職員が協力する姿が見受けられた。	
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ひとりひとりの食べる量、好みに合わせた食材の提供をしている。		
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛けでできる方はして頂き、磨き残しを介助している。		
45	19	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	時間に合わせて声掛け、パットの交換を促し、介助を行っている。	利用者の状況によって、排せつチェック表にて排せつパターンを把握し、利用者の行動等により誘導が行われている。各居室及びリビングにトイレが設置されており、プライバシーに配慮しながら排せつの自立に向けた取組みが行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便間隔の把握、その方に合わせた飲食物の提供、薬の調節を行っている。		
47	20	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	建物の構造上、曜日を決めて、入浴をしている。その日の体調に応じて、本人の入りたい時間にはいってもらっている。	午前から夕方までの時間帯で、一日おきに入浴を実施している。好みのシャンプー類の使用が出来る。拒否が見られる利用者に対して、声かけする時間や職員を変えるなどの工夫がある。	
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	声掛けし、居室やホールソファで休息を取って頂いている。		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ひとりひとりの服薬時確認を行っている。		
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その時の入居者の気分に応じて声掛け支援を行っている。		
51	21	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	悪天候でない限り、近所への散歩の支援。季節に応じた花の見学にドライブにてかけている。	気候を見計らったの買物や散歩、ひな祭り見学等、季節に応じた外出が行われている。家族との関係性の継続のため、家族対応による外食、買物、季節行事等の外出を推奨している。	
52		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	近くの店への買い物に付き添い、希望の品を選べるように援助している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	週に一回又は、その時に応じて電話をかけられるようにしている。		
54	22	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な雰囲気、その時の季節に応じた飾りをおこなっている。	廊下は、季節を意識したさりげない装飾がほどこされている。リビングは、ソファや椅子が置かれ、ゆっくりと過ごすことができる。	
55		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや、椅子の配置により一緒に座られたり、ひとりで過ごせるように工夫している。		
56	23	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の広さに合わせ、最小限の使い慣れたものを持ってきてもらっている。	居室には、テレビ、衣装ケース、時計、本などの使い慣れた物や馴染みの物が持ち込まれ、安心して過ごせる居室となっている。	
57		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室へ名札を掲げて自分の部屋が分かるようにしている。		

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	1. ほぼ全ての利用者の	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係が できている (参考項目:9,10,21)	1. ほぼ全ての家族と
		2. 利用者の2/3くらい			2. 家族の2/3くらいと
		3. 利用者の1/3くらい			3. 家族の1/3くらいと
		4. ほとんど掴んでいない			4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	1. 毎日ある	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	1. ほぼ毎日のように
		2. 数日に1回程度ある			2. 数日に1回程度
		3. たまにある			3. たまに
		4. ほとんどない			4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	1. ほぼ全ての利用者が	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 少しずつ増えている
		3. 利用者の1/3くらいが			3. あまり増えていない
		4. ほとんどいない			4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 職員の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 職員の1/3くらいが
		4. ほとんどいない			4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	1. ほぼ全ての利用者が	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 利用者の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 利用者の1/3くらいが
		4. ほとんどいない			4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	1. ほぼ全ての利用者が	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 家族等の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 家族等の1/3くらいが
		4. ほとんどいない			4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	1. ほぼ全ての利用者が			
		2. 利用者の2/3くらいが			
		3. 利用者の1/3くらいが			
		4. ほとんどいない			